

## 1. プログラム名：感染症専門医コース

2. 指導責任者：松本哲哉（感染制御部部長、微生物学教室教授、日本感染症学会指導医）

## 3. プログラムの概要

プログラム終了時には、感染症治療・制御の責任者として活動できることが目標です。研修期間は原則4年間とし、終了後には感染症専門医を取得するよう推奨します。感染症はどの臓器にも起こるものであり、感染臓器以外にも全身に反応が起こり得ます。そのため、全身を意識して診ることが感染症科医には特に大切となります。

感染症がどの診療科でも起こり得るという性質上、各科との連携を円滑に行うことが大切になります。初期研修では各科の診療活動についての理解が進んだことと思います。それを踏まえた上で、まずは内科医としての素養をしっかりと身につけることに重点を置きます。感染症に関わることの多い集中治療分野の研修も受け、重症患者の全身管理を学ぶ過程で、感染症診療がどのように関わってくるかについても理解を深めていただきます。

感染症分野に関しては、臨床微生物、抗微生物薬、感染制御、臨床感染症のスキルをバランスよく習得していくプログラムを組んでおります。他院の感染症プログラムで研修する機会も設け、大学病院という枠にとられない幅広い視点で感染症に携わる場も提供したいと考えています。

感染制御部研修では、各科からのコンサルトや感染制御ラウンドにおいて第一線で活躍していただきます。各事例について、指導医の指示を待つのではなく、まずは自分で診療や対策の計画立案を行い、ディスカッションを通して感染症医としての考え方を身につけ、未知の事例に対する応用力をつけることを目標とします。

HIV 診療に積極的に携わることができるのも大きな特徴です。HIV 診療に関して日本有数の患者数を誇る当院臨床検査医学科のご協力の下、HIV の外来、入院診療に関するスキルを身につける機会があります。

3, 4年目には選択研修の機会を設けました。他病院での感染症研修、熱帯医学研修、旅行医学研修、短期留学など各個人が強化したいスキルを身につけるチャンスとなります。研修施設の選定など最大限の支援を行います。

発足したばかりのプログラムであり、上記以外にも各人の希望に最大限沿うような研修計画を柔軟に考えていきます。

## 4. 年度毎の研修内容（案）

### 1年目

内科各科	臨床検査医学科	小児科	集中治療	微生物検査室	感染制御部
------	---------	-----	------	--------	-------

4 か月	2 か月	1 か月	2 か月	1 か月	1 か月
------	------	------	------	------	------

## 2 年目

内科各科	臨床検査医学科	集中治療	感染制御部
5 か月	2 か月	2 か月	3 か月

## 3、4 年目

感染制御部（選択研修含め）	臨床検査医学
11 か月	1 か月

## 5. 週間スケジュール

回診，診察は毎日行う

月曜日：Mandell 勉強会

火曜日：感染制御部ラウンド（血液培養陽性、コンサルテーション、耐性菌、指定薬剤長期使用）

金曜日：病棟回診、カンファレンス

土曜日：各種院外カンファレンスへの参加

その他、感染症クルズスを定期的開催（テーマは感染症診療の原則、抗菌薬、血液培養、CD 腸炎、耐性菌、感染性心内膜炎、感染対策、渡航医学など）

## 6. 取得できる資格

日本感染症学会専門医

抗菌化学療法認定医／指導医

インфекションコントロールドクター(ICD)

国際旅行医学会 Certificates of knowledge in Travel Health

## 7. プログラム終了の評価・認定方法

上記 6 に掲げた資格、研修時の各医療スタッフからのフィードバック、経験症例数、学会発表数、論文発表数などを総合的に評価

## 8. 処遇・待遇

最初の 3 年間は東京医科大学病院後期研修医の待遇に準じます。

週 1 回（半日ずつであれば 2 日）の院外勤務が可能です。これに対する給与は勤務先から支給されます。

健康保険、厚生年金、労災保険に加入します。

後期研修 4 年目（卒後 6 年目）以降の待遇に関しては、病院の規定に従います。